

北部九州の
シーマンに
朗報!

会員制ボートレスキューサービスの
BANがエリア拡大

九州BANが 今春から始動

プレジャーボートの曳航サービスを行う会員制救助システムBANは、1992年に東京湾と相模湾でスタート。以後、運用地域を拡大してきましたが、誕生から四半世紀を経て、サービスエリアは九州北部まで到達。この4月1日より会員からのレスキュー依頼を受け付けています。

去る3月27日、福岡市の西福岡マリーナ マリノアで「九州BANサービス開始発表式」が開催されました。セレモニーには日本海洋レジャー安全・振興協会のほか、海上保安庁第七管区海上保安本部および福岡海上保安部、そして福岡県各地のマリーナなど関係者が参加。九州BANの4月1日からのサービス開始が宣言され、出席した救助事業者へレスキュー・ステーション(RS)の指定書を交付、さらに海上保安庁巡視艇とBAN救助艇による出港デモンストラレーションが執り行われ、式典はつつがなく終了しました。

ご存じのようにBANはボート・アシスタンス・ネットワークの略で、プレジャーボートオーナーを対象に「自分の安全は自分で守ろう」のコンセプトで、官民一体となり設立された会員制救助組織です。

会員が受けられるサービスは、24時間365日、設定されたエリア内で航行不能となった場合、無料でボートの曳航や伴走を行います。救助に向かうRSは、エリア内のマリーナをはじめとする民間の海のプロフェッショナルで構成され、



日本海洋レジャー安全・振興協会の佐久間 優理事長からRS指定書を受け、マリノア(ササキコーポレーション)の佐々木露子常務取締役



左：九州BANサービス開始に向けて体制作りに奔走した日本海洋レジャー安全・振興協会の救助事業部BAN本部部長の日高秀希さん(右)と九州BAN担当部長の早苗由隆さん(左)



右：RSのレスキュー艇に掲げられるBANのフラッグと救助担当者用のキャップ

会員から連絡を受けたBAN本部のレスキュー・オペレーション・センター(ROC)から、もっとも適切なRSへ出動要請が行われる、という流れになっています。

ちなみにBANが受け持つレスキューは、機関故障などの軽微なトラブルが原因の場合に限られ、火災、爆発、衝突、転覆など人命に関わる甚大なトラブルは海上保安庁へ通報されることとなります。

シーマンにとって、いざというときに備えるものとしてはボート保険がありますが、これはトラブル発生時に救助を手配してくれるものではありません。対してBANの目的は実際の救助であり、その際の曳航費用を補償するのが特色。海版ロードサービスともいえるでしょう。

プレジャーボートの事故のほとんどが陸から3海里以内の沿岸部で起き、さらにその原因の多くを機関故障などの軽微なトラブルが占めるという傾向が続く現状を見ると、BANの有効性が際立ってくるのではないのでしょうか。

BANがスタートしたのは1992年のことで、当初は東京



九州BANサービス開始にあたり開催された式典で、海上保安庁の巡視艇と西福岡マリーナ マリノアの救助船〈MARINO A 1〉(ヤマハMY-50)がデモンストレーション。実際のレスキューでもRSと海上保安庁が連携して対応することがある

湾～相模湾にエリアを限って、サービスを開始。初年度の会員数はわずか315人でした。しかし入会金10,000円&年会費18,000円(5トン未満の艇の場合)というリーズナブルな設定が評価されるとともに、BANは安全なボートینگには不可欠なものと認知されるようになり、会員数は順調に増加。96年には関西(若狭湾を含む)、2001年に中部、14年に瀬戸内とサービスエリアが拡大。会員数も今年の3月末時点で9729人までに達しました。

今回、サービス開始となった九州BANは、山口県西部から福岡県、佐賀県の日本海側沿岸および長崎県壱岐島周辺の距岸10海里という海域が対象エリアとなります。この地域には福岡市、北九州市という二つの政令指定都市があり、とくに博多湾周辺にはマリーナも多くプレジャーボートینگが盛んです。さらにエリア内には下関市角島の北西にある汐巻や壱岐島北西の七里ヶ曽根など、全国的にも知られる釣りの好ポイントも。すでに各マリーナには入会の問い合わせが相次いでいるようで、九州BANは地元のシーマンにはもちろん、当地への遠征を考える他エリアのシーマンにとっても心強い存在になるに違いありません。

2年間をかけて運用の体制作りが進められてきた九州BANは、この4月現在で59カ所のRSを確保。今後もネットワークの拡大を目指していきますが、さらには次のステップとして、四国・愛媛県との間の豊後水道および平戸や天草など九州西部でのサービスを行うべく検討していますので、今後の展開にご期待下さい。

西福岡マリーナ マリノア

九州BANサービス開始発表式の会場となった西福岡マリーナ マリノアは、1993年に開業した九州最大級のマリーナ。福岡市中心部から近く、ショッピングモールやホテルも隣接する都市型リゾート施設であり、周囲には釣りやクルージングに適したポイントも多数。ふくおか・マリノア海の駅として登録されており、もちろんビジター設備も充実している。



キャバシティは海上、陸上合わせて約240隻。200フィートまで入港可能で、約18隻分のビジター桟橋を保有する



壱岐島を含む玄界灘のサービスエリアをカバーする



実際のレスキューを担当するベテランスタッフたち

問い合わせ先

福岡県福岡市西区小戸2-11-1
TEL : 092-885-2288
<http://www.marinoa.co.jp/>

九州BANが今春から始動



サービス開始の九州BANエリア 頼もしいRSの横顔

4月1日からサービスを開始した九州BANの新規エリアは上図の通りで、山口県角島灯台～響灘～玄界灘～博多湾～壱岐島～佐賀県肥前宮埼灯台の距岸10海里となります。同エリアでは現在59カ所のマリーナや海事従事者がRSに指定されていますが、ここではその一部をピックアップしてご紹介します。

1 白洋

門司港にほど近い片上港にベースを置く白洋は、会員制で知人ぞ知る腕利き遊漁船。船長は関門海峡からその沖に広がる響灘まで熟知する。特に釣り人に人気のある関門海峡は、航路があり、潮流が最大10ノットを超える難所だけに、遊漁船組合長で協力者も多い白洋の存在は心強い。

福岡県北九州市門司区片上海岸5
TEL: 090-3075-6881



救助艇となる「白洋」(ヤマハDY-53)の本業は遊漁。響灘ではこれから夏にかけてイサギがよいとのこと



船長の白石善樹さん。これまでも動けなくなった仲間の船やプレジャーボートを助けに行ったりとレスキュー経験は豊富

2 堅誠丸

関門海峡の下関側で海事事務所を経営する土方堅詞さんが所有運営するのが、作業船兼クルーズ船の「堅誠丸」だ。全長24メートルで800馬力を積む排水量型船舶で、型は古いがパワフル。響灘で難所といわれるポイントでも安定走航できるほど波にも強いとのこと、安心して曳航を任せられそう。

山口県下関市豊浦町川棚 1468-17
TEL: 090-7029-1050



さまざまな業務に使用されてきた「堅誠丸」は、今春から救助船としても稼働



土方堅詞さんと息子の淳平君。「海で仕事をさせていただいているので、社会に恩返しがしたいとRSに手を挙げました」

3 ジャパンマリン

下関で水中工事や水中調査、ダイビングスクール経営など潜水関連の業務を幅広く展開するジャパンマリンは、創立50年近い老舗である。本業でもプロペラにロープを巻いた大型船の救助などを依頼されることも多く、ポート免許所有のスタッフはレスキューに関する経験と実績を豊富に備える。

山口県下関市彦島迫町4-12-4
TEL : 083-266-4809



救助艇の1隻となる〈カナンド28W〉。現場には7人のベテランスタッフがあり、救助体制は万全



ジャパンマリンでレスキューを担当する金子利将工事課長。「事故のないのが一番ですが、出動要請には迅速対応したいと思います」

4 わかしお

わかしおは、世界遺産に登録された「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」がある福岡県宗像市で、遊漁船業や玄界灘の海の幸を供するレストランを運営する会社。当地域は漁業が盛んで、わかしおの経営者も元漁師だが、プレジャーボートへの理解があり、快くRSを引き受けてくれた。

福岡県宗像市上八757-1
TEL : 0940-72-5272



わかしおが手がける漁師レストラン「鉄板ダイニングわかしお」。玄海ヤリイカを用いたコース料理がおすすめ



わかしおの八尋武志専務。「船に乗る人はみんな仲間。困ったときは助けに行くのが当たり前です」

5 マリーナ博多

博多湾の中央にある地元密着型マリーナ。保管艇はほぼ釣りがメインで、カジキねらいで沖に出るフネも多く、なかにはトラブルに遭うケースも。従ってスタッフ7人はレスキュー経験が豊富だという。「当マリーナの会員さんには全員BANに加入していただこうとおすすめています」と牛島 晃社長。

福岡県福岡市中央区港3-3-29
TEL : 092-731-8303



(上) 牛島社長(右端)以下、マリーナスタッフは救助作業にも精通している
(左) 約70隻を陸置き保管するマリーナ博多。福岡市周辺の釣り好きボーターが集まっている

6 福岡マリーナ

昨年創立50周年を迎えた県内屈指の老舗マリーナ。RSに指定される以前より、福岡県水難救済会の救難所であり、水上バイクによるパトロールも行うレスキューに熱心なマリーナとして知られている。博多湾に突き出た海の中道の先端部分にあり、湾内のどこにアクセスするにしても近い。

福岡県福岡市東区大岳4-2-61
TEL : 092-603-2268



200馬力船外機搭載の33フィート和船〈オオタケ〉。舷側の一部が開き、要救助者や水上バイクまでもデッキに引き上げた専用の特別仕様艇



ハーバーマスターの山田靖之さん。「昔から積極的にレスキューに取り組んできましたので、RSへの協力に迷うことはありませんでした」

7 海楽隊 華葉丸

華葉(はなしお)丸は、関東や関西からも釣り客が押し寄せる人気の遊漁船だ。主にねらうのは壱岐と対馬の間にある七里ヶ曾根での青ものなど。6月～7月に同エリアが禁漁となるため、この間なら対応可能とRSに。「プレジャーにとってBANのようなシステムは必須ですね」と船長の東野哲則さん。

福岡県福岡市西区愛宕浜 姪浜漁港
TEL : 090-9075-0570



〈華葉丸〉はヤンマー750馬力を積む60フィート艇。魚探、レーダー、ソナーなど完備するばりばりの遊漁船だ



船長の東野哲則さん。元漁師であり、北部九州の海を隅々まで知る人物

8 唐泊鉄工所

博多湾の北西端、唐泊港内にある同鉄工所は、3代続くヤンマー漁船の店。同時に「カラトマリーナ」としてヤンマープレジャーボートの有力販売店でもある。以前から漁船、プレジャーを問わず、顧客からの救助要請に応じてきた実績があり、BANが始まると当然のようにRSを引き受けた。

福岡県福岡市西区宮浦1098
TEL : 092-809-2523



(上) 4人家族で営む唐泊鉄工所。左端が門司輝義社長で、右から2人目がプレジャー関連の営業部長を務める直子さん(左) ヤードにはヤンマーの新艇がずらり。鉄工所なので修理や新艇装束もお手のものだ